

緊急報告令和 7 年京都府産新茶の状況について

令和 7 年 6 月

公益社団法人京都府茶業会議所

全農京都府本部茶業市場課

令和 7 年京都府産一番茶の生産量と茶価について、ほぼ一番茶の生産が終了した現時点での報告をいたします。

京都茶業界におきまして、ここ数年世界的な健康志向の高まり等により抹茶需要が急増しております。抹茶ブームにより、抹茶ラテ・スイーツ市場において抹茶の使用が拡大し、使用用途が多岐にわたる「初茶てん茶」の需要が増加しています。さらに、「宇治てん茶」を原料にした高級抹茶は、従来の茶道や濃茶に使用されるだけでなく、急増する外国人観光客によって、日本国内の茶販売店で買い求められています。

こうした中、昨年秋頃より抹茶の品薄が続き、同様に茶道具などの関連商材や資材も品薄、価格高騰の状況となっています。抹茶需要の拡大から玉露、かぶせ茶、煎茶の「揉み茶」は、「てん茶」への移行が進み、生産が減少し、不足となっています。

また、「刈直」（番柳）等で加工されたほうじ茶を原料とする「ほうじ茶ラテ」やスイーツなど多様な商品の普及が進んでおり、茶の利用シーンが様々に広がっています。

このような、状況の中で始まった令和 7 年全農京都茶市場における一番茶の取引状況は、以下のとおりです。

1. 京都府における生産量と茶価について

（1）生産量（取引数量）について

全農京都茶市場で取引される一番茶の本年産（2025 年）は、全茶種において減産となっている。

前年から在庫不足の「てん茶」は、増産を期待されていたが、「宇治てん茶」60%、「初茶てん茶」82%となり、前年より減産となった。

揉み茶においても、てん茶への生産移行も影響し、「玉露」、「煎茶」は、30%以上の減少で、「かぶせ茶」や「刈直し」にいたっては、50%を割り込んでいる。

（参照：表 1、別紙資料：全農京都茶市場 年度別一番茶取引数量 図①）

表 1 令和 7 年全農京都茶市場における一番茶減産状況

茶種名	取扱数量(kg)		前年比 (%)
	前年	本年	
宇治てん茶	10,216	6,140	60
初茶てん茶	529,960	434,521	82
手摘み玉露	1,511	1,274	84
玉露	43,773	29,767	68
かぶせ	66,445	28,401	43
煎茶	120,883	76,727	63
刈直	111,335	54,841	49
合計	884,122	631,670	71

注) 令和 7 年 6 月 11 日現在

(2) 茶価格（単価）について

全農京都茶市場での取引において、全茶種で高騰し、特に現在人気の抹茶原料である「宇治てん茶」、「初茶てん茶」の価格は、前年比200%を超えている

また、抹茶需要増加に対応するためのてん茶生産への転換で、玉露・かぶせ茶・煎茶の取引数量が減少し、取引価格は、前年比で130%～150%となっている。主にほうじ茶原料である刈直の価格についても、前年比で180%と高騰している。

(参照：表2)

表2 全農京都茶市場における一番茶の平均取引価格前年対比

茶種名	取引価格 (円/kg)		前年比 (%)	参照先
	前年	本年		
宇治てん茶	20,024	43,330	216	図②
初茶てん茶	5,402	14,541	269	図③
手摘み玉露	21,985	33,212	151	図④
玉露	5,487	8,447	154	図⑤
かぶせ	3,592	4,608	128	図⑥
煎茶	3,407	4,494	132	図⑦
刈直	674	1,196	177	図⑧

注) 令和7年6月11日現在

2. まとめ

京都府内流通業者はこれまで、人件費高騰に加え、資材費、加工・物流費の上昇、円安の影響も重なり商品コストが軒並み上昇し厳しい状況でしたが、企業努力により価格維持に努めてきました。

このような中、本年の一番茶価格高騰は従来経験したこともない比率での高騰であり、大きな不安も生じております。

茶価格の異常な高騰は茶業者にとって、非常に厳しい状況にあり本年度産茶販売に大きな支障が出始めております。

すでに商品値上げを告知されている業者もありますが、7年度宇治茶市場の状況をご理解頂きたく、お知らせいたします。

別記

○ 茶種名について

宇治てん茶：手摘み	かぶせ茶：はさみ摘み
初茶てん茶：はさみ摘み	煎茶：はさみ摘み
手摘み玉露：手摘み	刈直：煎茶等の刈直しを加工、ほうじ茶原料
玉露：はさみ摘み	

○ 別紙参考資料

全農京都茶市場 年度別一番茶取引数量2025年6月11日データ図①～図⑧